

本が泣いています・・・

ページが折れてしまったものは元にもどりません。



時々、閲覧席でも見かけますが、本を伏せて置いたままにすると、背割れやページはずれの原因になります。

図書館の資料でページが外れたり、背が割れたりしたものは、専用の修理用品で直します。もし破れてしまった場合は、セロハンテープなどで補修なさらずカウンターにお申し出ください。長期間にわたって大勢の方が利用されるものです。皆様のご理解とご協力をお願いします。

サンデー毎日のカウンター扱いについて



週刊誌への書き込みが続いています。そのため、クロスワードパズルや数独など、書き込みが予想されるページの上から透明のシールを貼る等の対策を行ってきました。しかし、そのシールの上から油性ペンで書き込むなど悪質なケースが発見されたため、やむなく『サンデー毎日』最新号については、カウンターで管理することになりました。

一部の心ない方の行為のために、みなさまにご不便をおかけすることになり申し訳ありませんが、何卒ご理解をお願いします。

こもれび 通信

VOL.11
2012.10.15

渋谷区立
こもれび
大和田
図書館

2012

10-11

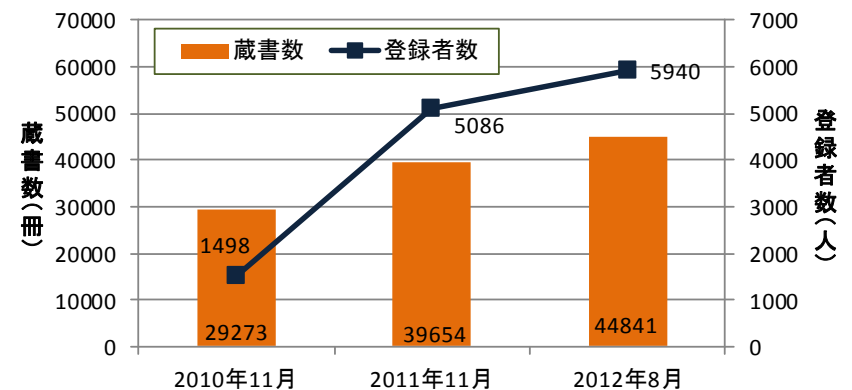
月号

渋谷区桜丘町 23-21 文化総合センター大和田 2階 Tel 03-3464-4780

こもれび大和田図書館は 11月21日で開館2周年

こもれび大和田図書館は2010年11月21日、渋谷区文化総合センター大和田の開館とともにオープンしました。当館の前身である「大和田図書室」が2006年に閉鎖してからおよそ4年。区民のみなさんが待ち望んでいた新しい図書館です。

開館から2年で、蔵書は約2万9千冊から約4万5千冊に増え、今年8月の1日平均の入館者数は808人と、たくさんの方々に利用していただいています。今後とも、どうぞよろしくお願い致します！



Twitter やってます。@genkina_komolib

区政施行80周年記念 図書館フェア 昭和から平成へ シブヤの暮らし



10月12日から11月7日まで行う「秋の図書館フェア」特別展示では、渋谷のできごとの年表にそって、各時代に関連した本を集めました。本を通して、それぞれの時代ごとの「シブヤの暮らし」を感じていただければと思います。カウンター前で実施している「わたしの好きな渋谷の本」などのアンケートの内容は随時展示に反映させていただきますので、ぜひご参加ください！
(写真は9月のプレ展示のものです)

桜丘町が登場する本



『妖怪博士』
江戸川乱歩
(ポプラ社)

「怪人二十面相」シリーズの一作。少年探偵団員のひとり、小泉信雄さんの自宅は渋谷区桜丘町。戦前の渋谷は、人通りがなくさみしい町として描かれています。



『素人がいっぱい
ラブホリックの事件簿』
新野剛志(東京創元社)

「国道246に分断された渋谷の僻地、桜丘町」の老朽ビルにある風俗店「ラブホリック」の店長が主人公の連作ミステリ。満開の花が咲き誇るさくら通りも登場します。

「シブヤの暮らし」プレ企画(9月実施)展示より @シブヤの小説 タイトル当てクイズ

渋谷を舞台にした次の小説のタイトルと作者を当ててください。
(答えはこのページの欄外にあります)

1：明治通りを右折すると路地に入り、渋谷川にかかる小さな橋を渡った。川といっても名ばかりで、コンクリートで固められた川底を鉄錆色の水がちよろちよろと流れているだけだ。それでも、このあたりは一年中じめじめと湿っぽく、ドブの臭いと小バエが絶えない。club indigoは、橋のもとに建つ古いビルに入っている。エレベーターで二階に上がると重たい鉄のドアを押した。とたんにむっとした空気と、大音量のヒップホップミュージックがぶつかってくる。

2：神宮外苑から、青山墓地を通り抜けて、しばらく走ると大邸宅の高い塀ばかりがつづく、非常にさびしい通りで、先の車がバツタリ止まったと思うと、いきなり飛び出す黒マント。怪物は狭い横丁へと走りこんだ。

3：山口は右に左に路地を曲がる。センター街の人ごみを利用してすり抜け、スペイン坂を駆け上がる。パルコパート3に駆けこみ階段を駆け登りエスカレーターを逆走した。パルコ、ロフト、西武、東急、丸井、渋谷の街を知り尽くした山口はデパートの高低差を使い追っ手を混乱させる。特に東急ハンズは入り組んだ階段が攪乱するには適していたが、相手が大人数の時は挟みうちを喰う可能性があるので今日は使えない。

(答) 1：加藤実秋『インディゴの夜』 2：江戸川乱歩『吸血鬼』 3：ヒキタクニオ『凶気の桜』